

## クロンドンドン・シンソンビ(蛇婿入り)譚 に表れた儒教思想

Confucian Ideology as Expressed in the Story of Kurondondon  
Shinsonbi (The Marrying-In Snake)

崔仁鶴

### 【論文要旨】

朝鮮時代（500年間）には儒教思想が韓国を支配していた。その結果、知識層によって虚無孟浪とした空想的な話は排除されてきた。すなわち本格昔話に該当する多くの部分が儒教思想に抑えられて消えていった。儒教は事実的なるもの、あるいは現実的なるものを追求したのであった。实事求是というのは儒教で止揚する目標であった。つまり事実に基づいて真理を探求することを理想としたものである。

まず、伝承過程に注目すると、二通りの類型の存在が認められる。一つは可能な限り表現を変えずそのまま伝承するものでごく少量である。もう一つは表現が変わるもので、これは現に採録することが可能である。この論文は儒教思想がいかに多くの説話に影響を与えたのかに焦点を合わせて探ろうとするものである。

儒教思想の影響を受けた説話として孫晋泰が1927年に採録した「蛇新郎申土人」を取り上げ、また、影響を受けていないものとして筆者が自ら採録した「クロンドンドン・シンソンビ」を挙げることにする。

- ① 士人は朝鮮時代において常用した名称で、士大夫の学者たちのことを言う。すなわち官吏になる前か官吏になりたくない学者たちのことである。この昔話で主人公の蛇が士人と称するのは両班社会から没落した両班の階層を指すのであろう。
  - ② 昔話では一般に長者家という呼称を用いるが、儒教風の昔話では宰相家という表現を用いる。宰相とは、いまの大臣以上の身分階級である。
  - ③ 昔話では、煙突の中に隠しておいて蓋をかぶせるという表現が適切である。貧しい家では煙突を低くし、風を防ぐために蓋をかぶせることが多い。しかし、儒教風の昔話では寝屋の中にあるかのようになっている。
  - ④ 普通、一般の庶民たちにとって婚礼における準備と決定は主婦の責務である。しかし両班社会においては男子（主人）が決定する。
  - ⑤ 人間が龍宮に行くというのは昔話においてしばしば用いられる。しかし儒教においては实事求是にあわないので、この昔話ではそのような表現をせず、ただこの世を捨てて放浪の旅をするという表現になっている。
- このように考えてみると、この昔話のみならず他の昔話にしろ儒教の影響を受け儒教精神に合うように直された昔話が多いと言うことができる。